

2021. 8. 11
「石夢工房」の思いで
森紘一

「石夢工房」は石彫作家 佐藤賢太郎の創作活動の原点であった。

平成18年(2006)、埼玉県から郷里の阿賀町豊実にUターンした佐藤さんは、その後の作品の数々をこの工房で生み出している。



そもそも「石夢工房」は、コスモ夢舞台の仲間も一緒に協力した手づくり工房で、フォークリフトもそのまま空きスペースに駐車でき、無農薬米や手づくり味噌も収納されていた鉄骨組の大きな建物だった。

後付けの内階段を上がると、屋根裏は10人程度が休める鰻の寝床となっていて、建設作業の盛んだった平成20年(2008)前後は東京ブロックからの参加者の定宿となっていた。慣れるまで、何度柱に頭をぶつめたか分からない。カメムシとの格闘も、今は懐かしい思い出である。

平成21年(2009)に合唱の国エストニアのエレルヘイン少女合唱団46名が来訪された時は、この「石夢工房」にも何人かが投宿している。

さらに、隣接する「桃源の湯」は雪をかぶった飯豊連峰を望む絶景が自慢だったが、湯上りにあおぐ満天の星もまた格別の味わいだった。

この野生味溢れる別世界は、ここで汗を流し、ここに憩い、まどろんだ者すべての記憶の中にしっかりと生きている。

HPに載った「石夢工房、全焼」の“私は形を変えて立ち上がります”という佐藤さんの宣言は何とも力強い。

ストーンサークルづくりに励むかたわら目指す縄文村構想は、新たに再生という大きなテーマに取り組む佐藤さんのゆるぎない姿勢につながっている。